［調査研究］

錦絵・絵本について

― 和漢書貴重図書目録の周辺 ―

大原　理恵

1. はじめに

本稿は，前稿[*1]に引き続き，平成17年度版『東北大学附属図書館本館所蔵 貴重図書目録 和漢書篇』の補足として，目録の記述方針・昭和11年版及び昭和36年度版『別置本目録』との相違等について記述するものである。その方針については，適宜前稿等の参照をお願いしたい。平成17年度版目録は貴重図書を大きく「古写本･古刊本」「原本稿本名家書入手沢本」「書画画図」「稀本」に分けている。今回は「書画画図」のうち前回対象とした「書畫」「畫圖絵巻物」，および前々回対象とした「地圖」以外の，残る「錦繪」「繪本」を対象とする。この分類は全て刊本（木版印刷）である。奈良繪本は次の「稀本」に分類している。

電子版「貴重書展示室」[2]で公開された（写真は一部のみ）110点のうち，5点が「錦繪」「繪本」の分類の資料である。(「書畫」「畫圖絵巻物」の分類は14点)

「貴重書展示室」の分類に従って示すと，【美術・工芸・技芸】吉原傾城新美人合自筆鏡（伊11-560）・百人女郎品定（伊6-606）･水滸伝豪傑百八人（伊11-561）･海幸（伊6-605）・山幸（伊6-621）である。

『日本の浮世絵美術館』巻1 北海道・東北・関東Ⅰ 永田生慈編集　角川書店 平成8年には，東北大学附属図書館が含まれているが，同書で紹介されているのは，『岩木繪つくし』菱川師宣（伊6-603）･『東都勝景一覧』葛飾北斎（伊6-612）･『唐土廿四孝圖會』歌川国芳（特別本・狩野文庫5-16535-1）･『廣重東海道五十三次』歌川広重（伊8-515）･『水滸傳豪傑百八人』（伊11-561）である。『唐土廿四孝圖會』が選ばれたのは，西洋画風であるところが注目されたのであろうか。

同書「編集の辞」永田生慈 には浮世絵についての研究・収集機関の史的事情について次のように述べる。

> 欧米では，多彩で華麗な浮世絵は日本を代表する美術作品のひとつとして，一八〇〇年代後半にはいくつかの研究が公刊され，各地の公共機関に大きなコレクションが形成されつつあったのである。
>
> これに対し，国内ではどうだったのであろうか。本格的な研究発表といえば，明治二六年に刊行された飯島虚心の『葛飾北斎伝』が嚆矢といえる。しかし，その後は三〇年代後半ごろからやっと研究が芽生えてきたという状況であり，収集展示を行なう機関については皆無に等しかったといってもいい。(中略)
>
> 公の機関による浮世絵の収集は，大正時代に入ってもほとんど大きく行なわれることはなく，やっと昭和一〇年代になって，浮世絵を専門に収蔵する機関の設立が望まれるようになったのである。

この流れを東北大学にあてはめてみるならば，浮世絵・浮世絵絵本類は，大正2年9月東北帝国大学開学記念展示においては，そうした場にはふさわしくないという判断であったか，含まれていない[3]が，昭和11年『別置本目録』には少なからぬ点数が収載されるようになったことに，一般の評価の変化を見ることができるともいえよう。

狩野文庫を中心とする東北大学附属図書館所蔵の錦絵・絵本類の目録が図書館員により編纂されている。

---

1 「書画関係資料について ― 和漢書貴重図書目録の周辺 ―」大原理恵『東北大学附属図書館調査研究室年報』6 東北大学附属図書館　2018年9月

2 「貴重書画像を電子的に公開～東北大学附属図書館所蔵「貴重書展示室」～」『木這子　東北大学附属図書館報』22巻3号（通巻80号）　平成9年12月　13頁

3 「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について（一）―昭和11年版『和漢書別置本目録　未定稿』刊行とその周辺―」大原理恵 『東北大学史料館紀要』8　2013年3月　東北大学史料館　73頁参照。

『**狩野文庫 浮世繪・錦繪・繪本目録**』〔東北大学附属図書館〕昭和 33（1958）年 9 月　謄写版
「昭和卅三年九月拾六日」とある。「絵本」と「浮世絵・錦絵」に分類，絵師別に狩野文庫本の番号・画家・書名・刊行所・刊行年・巻数・冊数を示したもので，特別本・別置本はそのことを番号のあとに（特）（別），彩色本は書名のあとに（彩）と記しているので，おおよその貴重書の位置付けを把握する手掛かりになる。

『本館所蔵**浮世絵師所畫目録稿**（調査第一予報）』〔矢島玄亮編〕（参考資料 62）〔東北大学附属図書館〕昭和 39（1964）年 9 月　謄写版
末尾に「昭和三九年九月九日　広重展附録」とある。

黄表紙・合巻類は除外。絵師の名を五十音順に並べ，その作である東北大学附属図書館本館所蔵資料を示したものである。

2.「錦絵」「繪本」の目録構成と記述

昭和 11 年版及び昭和 36 年度版『別置本目録』と平成 17 年度版『貴重図書目録』の構成上の相違点について述べる。前稿に記したように『別置本目録』では，風景を描いた錦絵は「畫圖」，人物を描いた錦絵は「書畫及ビ繪巻物」に分類されていたのを，『貴重図書目録』では「錦繪」としてまとめている。そして，「錦繪」の分類前半に風景を中心とするもの，後半は人物を中心とするものを配置した【図 1】。

『貴重図書目録』の「繪本」は，『別置本目録』の「繪本」（狩野文庫）に収められた資料を原則として継承しているが，次の資料は別の分類に移した。

おとしはなし　伊 6-606
　　→　稀本―諸種
竹とり　伊 6-611
　　→　稀本―奈良繪本
業平昔物語　伊 6-613
　　→　稀本―假名草紙
ふんしやう　伊 6-617
　　→　稀本―奈良繪本
變化はなし　伊 6-618
　　→　稀本―假名草紙
繪合鑑　伊 6-625
　　→　稀本―御伽草紙
女用訓蒙圖彙　伊 6-610
　　→　稀本―諸種

また，「繪本」（狩野文庫以外）の分類の資料（次の 2 点）も別の分類に移した。

静　延 4-1601
　　→　稀本―奈良繪本
頼光大江山入　延 4-1602
　　→　稀本　（奈良繪本の後）

これらの移転の理由については，それぞれの分類おいて記述する。

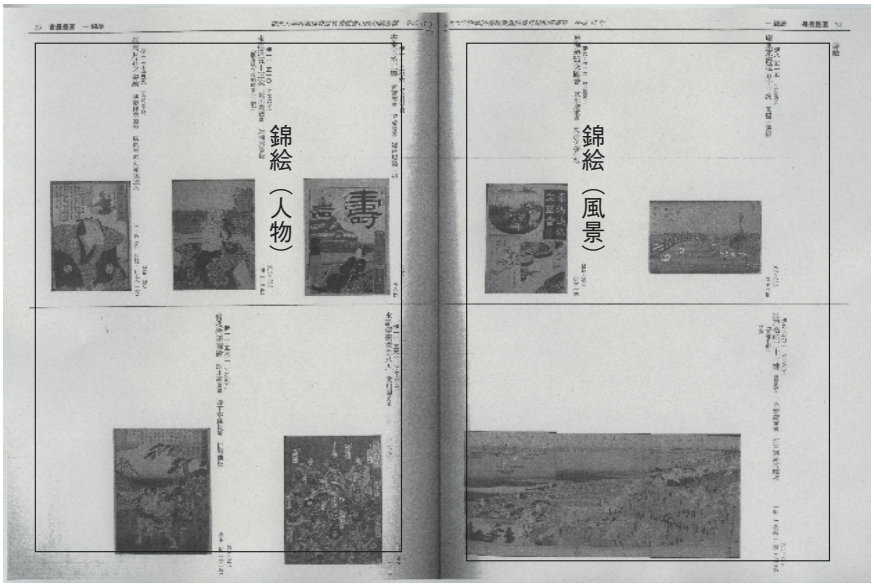


図 1　平成 17 年度『東北大学附属図書館本館所蔵 貴重図書目録 和漢書篇』24-25 頁

『別置本目録』では「畫圖」に分類されていた東海道五十三次関係の作品のうち，次の資料のみは，「錦繪」ではなく「繪本」に分類した。本来冊子であったと推測されることによる。『国書総目録』にも収載されている。

東海道五十三驛（北斎・重信）伊 6-509

目録における資料の配列について記す。『別置本目録』「繪本」においては他の分類と同様，資料名の五十音順に配列しているが，『貴重図書目録』では，絵師によってまとめ，概ね年代順に配列している。【図 2】このため結果的に，「繪本」の前半は墨刷，後半は彩色刷の資料が多くなっている。

「錦繪」の分類には，全て写真画像（原則として，最初の図）を挿入した。これは，目録の彩りとしてのほかに，利用者に類似作品との区別の手掛かりとして呈示している。通常の目録記述のみでは，同名の代表作，例えば，広重の「東海道五十三次」であれば保永堂版，国芳の「水滸伝豪傑百八人」であれば「通俗水滸伝豪傑百八人之壱個」と誤認される事態がしばしば発生していた。その対策として試みたものである。

錦絵・絵本類においては，保存状態が特に重要であるが，『貴重図書目録』収載資料の場合，全体的に状態はあまり良好とはいえない。なかには，この状態で貴重図書に選定した理由が何であったのか，必ずしも明快でないものもある。本稿においては，目録には具体的に記述していない損傷・改装状況についても紹介しておくこととする。

平成 17 年度版『貴重図書目録』編纂時に追加した資料は次の 3 点である。

○**西村重長けたもの画**　伊 -633（5-16547-1）
目録編纂時別置・貴重図書指定

○**北尾重政信畫本**　伊 -634（5-16575-1）
目録編纂時別置・貴重図書指定※正しくは**北尾重政畫本**

○**父の恩**　伊 -635（4-13349-2）
目録編纂時別置・貴重図書指定

このうち『西村重長けたもの画』（伊 -633）・『北尾重政畫本』（伊 -634）は，以前から別置されていた『花てうけたもの』（伊 6-607）の関連資料として追加指定したものである。この 3 点は，ともに漢籍の反故による補強【写真 1】や，欄外に番号の書入【写真 2】が見られる。この番号が何を意図とするものであるのか明確ではないが，あわせて管理し，後考を俟つこととするものである。なお，『西村重長けたもの画』（伊 -633）の版心の文字は「とりけた物」（五丁まで）→「けたもの」（十丁まで）→「とりけた物」と変化（表記小異あり）している。

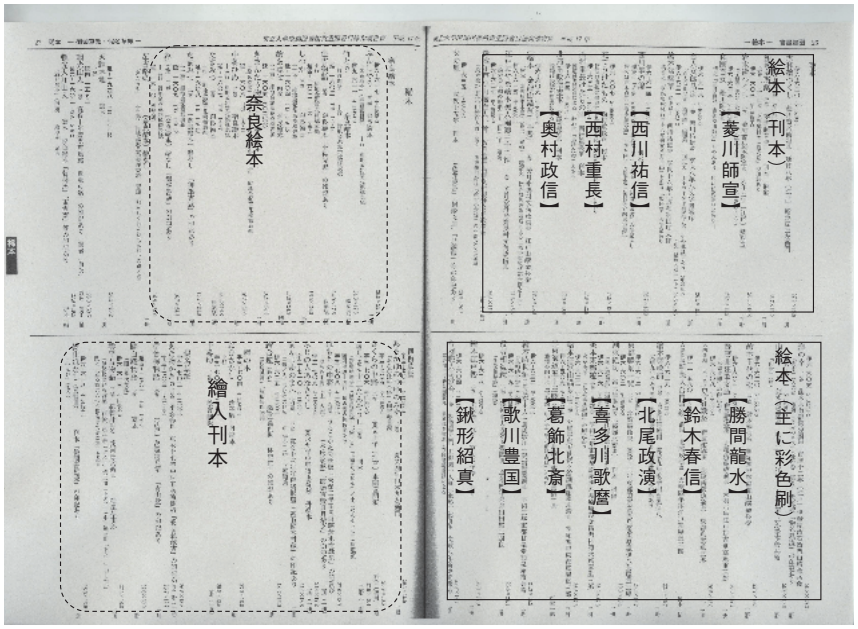


図 2　平成 17 年度『東北大学附属図書館本館所蔵 貴重図書目録 和漢書篇』26-27 頁

写真 1　左『花てうけたもの』（伊 6-607）
右『西村重長けたもの画』（伊 -633）

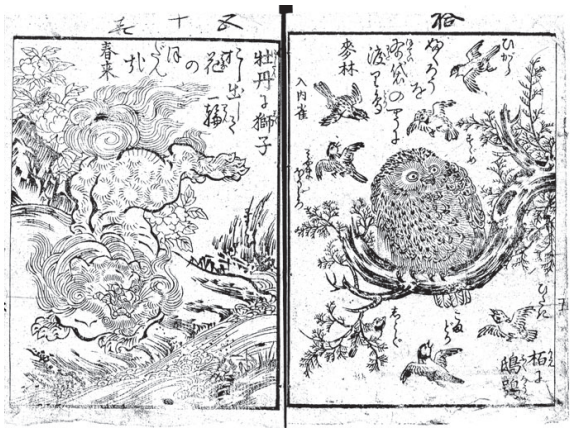


写真 2　『北尾重政畫本』（伊 -634）
※東北大学デジタルコレクション

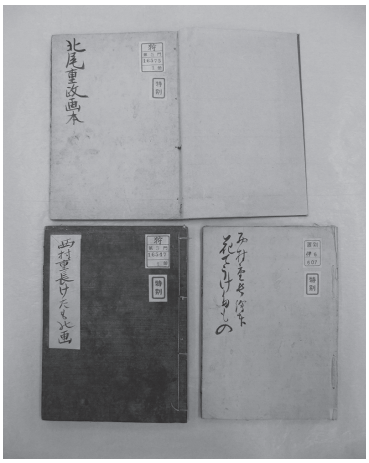


写真 3　花てうけたもの（伊 6-607）　西村重長けたもの画（伊 -633）　北尾重政畫本（伊 -634）　表紙

なお,『西村重長けたもの画』（伊 -633）（5-16547-1）の『東北大学附属図書館所蔵　狩野文庫目録　和書之部』東北大学附属図書館編　丸善株式会社 平成 6 年　における資料名は『とりけたもの畫』である。『東北大學所藏和漢書古典分類目録』は『〔西村重長けたもの画〕』としている。

『父の恩』（伊 -635）は，旧「特別本」。特に彩色刷の挿絵が注目されている資料である。「多色摺り絵俳書について」雲母末雄　は「初世市川団十郎の二十七回忌追善句集であり，巻末に付された破笠による四葉の挿絵は色摺り絵俳書の最初期のものであり，かつ寛永期以後とだえていた色摺り版本の久しい再現として画期的なものであった。」[4]　と評価する。

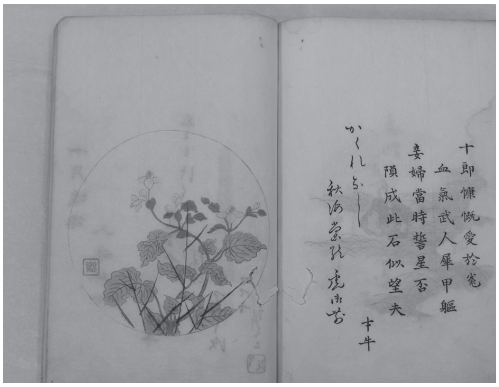


写真 4

次に，『別置本目録』『貴重図書目録』の記述の相違・改装・損傷状況等特記事項について『貴重図書目録』の配列順に記す。

【錦繪】

すべて，錦絵 12 枚～ 70 枚余を揃えたもので，巻子等に仕立てられているものもある。【写真 5】に外見を示す。

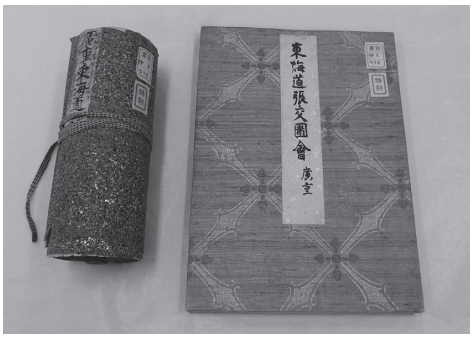


写真 5-1　左　『廣重東海道五十三次』（伊 8-515）
右　『東海道張交圖會』（伊 6-512）

4 『詩歌とイメージ―江戸の版本・一枚摺に見る夢』中野三敏監修　勉誠出版　2013 年　2 頁　初出『江戸の華　浮世絵展―錦絵版画の成立過程―』町田市立版画美術館　1999 年

写真 5-2 『東海道張交圖會』は上下折りたたみ

写真 5-3 『江戸名所二十一繍』

写真 5-4
『東海道五十三次』(伊 8-510)
美しい模様の表紙だが糸で綴じられ開きにくい

写真 5-5
『曾我物語圖繪』(伊 11-562)
板の表紙

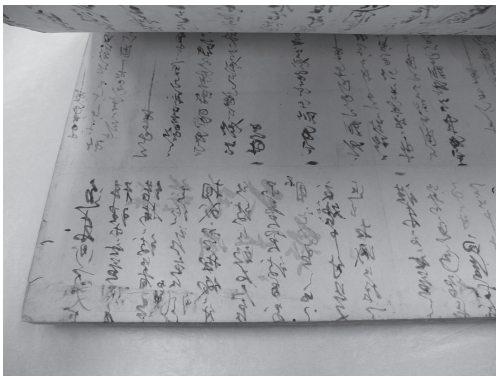


写真 5-6 『曾我物語圖繪』(伊 11-562) 絵の裏に反故を貼り補強

『江戸名所二十一繍』(伊 9-501) は，旧蔵者の命名と思われ，一般的な資料名称ではない。注記として，「東都名所」を添えた。広重の「東都名所」と称する三枚続の作品の一つで，二十一点を巻子に仕立てたもの。

写真 6 『江戸名所二十一繍』(部分)

【繪本】

「菱川師宣」の絵本から始まっているが，「菱川」「菱河」の表記は，『別置本目録』の昭和 11 年版と昭和 36 年度版で相違がある。『別置本目録』昭和 11 年版に見られる矢島玄亮氏の書込からも，意識的修正であると推定され，『貴重図書目録』もこれを踏襲している。『別置本目録』昭和 11 年版・36 年度版・『貴重図書目録』の変遷を示すと次の通りである。

大和繪つくし（伊 6-620）川→川→川
和國名所鑑（伊 6-624）　川→河→河
岩木繪つくし（伊 6-603）川→河→河
和國百女（伊 6-623）　川→川→川

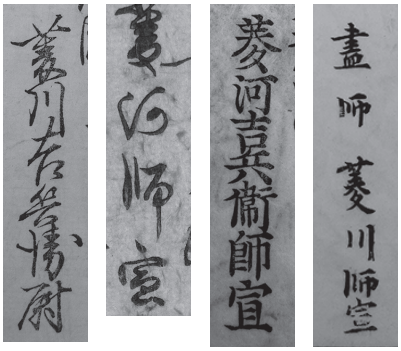


写真 7　左より　大和繪つくし・和國名所鑑・岩木繪つくし・和國百女

冊子体目録の場合はそれほど問題はないが，電子版目録検索においては注意を要する。

『和國名所鑑』(伊 6-624)

目録に「損傷」の記述を加えた。この記述は，鑑賞に問題がある程度の汚れや傷みが全体に見られることを示す。特に本資料の場合は，裏打に使用した紙の印刷された罫が表に透けて見えている。帳簿の用紙のようであるが，旧蔵者の手元の紙を利用したものとすれば，旧蔵者についての手掛になる可能性はある。

写真 8 『和國名所鑑』 の損傷状況と補強の紙(袋の内側を撮影)

『岩木繪つくし』菱川師宣（伊 6-603）

『別置本目録』では三巻三冊だが，『貴重図書目録』では二巻三冊としている。題簽は上・中・下であり，強いて修正する必要はないが，内容は本来二巻と考えられる。詳細については,『師宣祐信繪本書誌』松平進（日本書誌学大系 57）青裳堂書店 昭和 63 年　38-40 頁参照。東北大本による記述がある。

次に，西川祐信の絵本を置いた。『別置本目録』は，所謂正字を用いることを原則とし，「祐信」も「祐信」としている。『貴重図書目録』では，極力資料に用いられた字体近いものを用いることとしたので，「祐信」となっている【写真 9】。

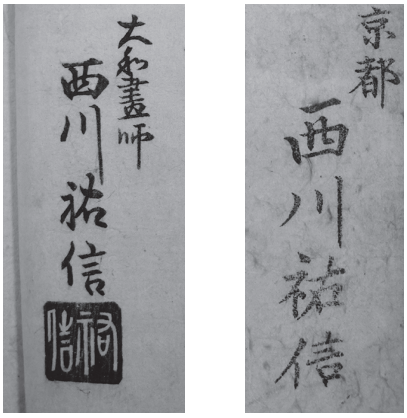


写真 9　左より　百人女郎品定・繪本常盤草

『百人女郎品定』（伊 6-616）

著名な作品で『師宣祐信繪本書誌』松平進は東北大学附属図書館本は初刻本としている（122 頁）が，欠損が多く状態は良くない。損傷部分の補写状況を【写真 10】に示す。

写真 10 『百人女郎品定』 損傷と補写　左側が補写

『繪本常盤草』西川祐信（伊 6-631）

中巻・下巻のみ。それぞれ由来は別である可能性がある。

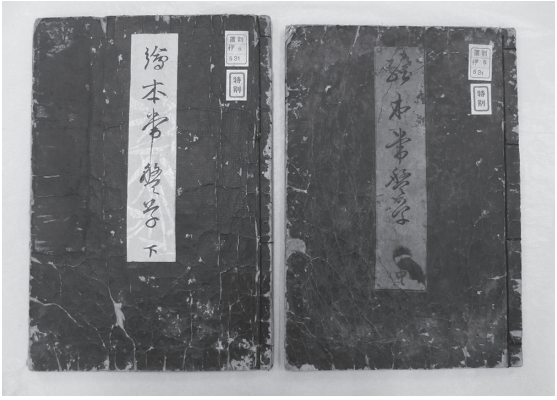


写真 11 『繪本常盤草』「中」と「下」で大きさが異なる

『西村筆の錦』（伊 6-614）

『別置本目録』では「西川祐信畫」とするが，『師宣祐信繪本書誌』松平進の『繪本和歌浦』高木貞武下巻と同じとの指摘（286 頁）により,「西川祐信畫」を削除し，注記に題簽に「祐信」と書かれていることを示した。

写真 12 『西川筆の錦』 題簽の書き込み

〔繪本　金龍山淺草千本櫻〕（伊 6-609）

『別置本目録』では，『繪本　新吉原千本櫻』とする。

『東北大學所藏和漢書古典分類目録』も同。この資料名は，下巻によったものと思われ，検索のため注記に残した。『稀書解題』第六編　稀書複製会　昭和５年　には「本書は夙に著名なる繪本なれども上下とも完全なるは至つて稀なり。（中略）上巻に至つては殆ど存在を疑ふ程に稀覯なり。」「上下二巻，表紙題簽ともに完全なるものを発見したれば，それを底本として複製刊行」（49頁）とある。残念ながら狩野文庫本には題簽はないが，稀書複製会本によって表題を「〔繪本　金龍山淺草千本櫻〕」とした。『国書総目録』もこの書名である。

『繪本江戸小山繪百人一首』（伊 6-627）

書名は題簽による。『別置本目録』では『繪本歌かるた小山繪百人首』とする。この書名は注記に残した。

この資料と混乱のおそれがあるのが，狩野文庫『繪本小倉錦』（5-16590-5）である。『繪本小倉錦』は『繪本江戸小山繪百人一首』『冠直衣女源氏姿繪百人一首』を含む数点の繪本を取り合わせたもので，狩野文庫に『繪本小倉錦』とは別に『繪本江戸小山繪百人一首』（伊 6-627）・『冠直衣女源氏姿繪百人一首』（5-16655-2）も所蔵している。この事情が『国書総目録』等を検索した利用者には見えにくく，注意を要する。

また,『繪本江戸小山繪百人一首』の冊数は,「二册（一册)」としているが，二冊を一冊に綴じ合わせてある状態の記述である。本書の場合は，題簽に「全」とあることからこのように記述したが，第二冊目の表紙にも題簽が剥がれたような跡がある。目録編纂時は全体について統一方針を立てることができず，目録刊行時に急遽原稿から削除した場合もあり，同様の状態でも必ずしもこの記述をしていない。このことは別稿において述べる予定である。

『海の幸』（伊 6-605）『山の幸』（伊 6-621）

『別置本目録』では,「海幸」「山幸」と表記している。現状では「東北大学デジタルコレクション」（後述）などでは「海幸」「山幸」で検索する必要がある。

『別置本目録』では，「勝間龍水」とあるのを『貴重図書目録』では「龍水」としたが，これも強いて変更する必要はなかった点である。

「狩野文庫の俳書」雲英末雄　は，もともと東北大学狩野文庫マイクロフィルムの推薦文として書かれたものであるが，この２点を閲覧した体験を「両書とも原装，題簽完備の勝間龍水画の美しい彩色刷の絵俳書で，それらをゆったりした図書館の一角で閲覧できたのは，まことに楽しい心のときめくような一刻だった。」[5] と記している。また，雲英氏は先にとりあげた『父の恩』からの絵俳書展開について，次のように整理している。

龍水は，『父の恩』（享保十五年）で，初世団十郎の遺句の板下を執筆しており，破笠の彩色摺りの挿絵にも注目していたはずである。そうして『その菊』（寛政四年),『わかな』（宝暦六年),『海の幸』（同十二年),『山の幸』（明和二年）と，色摺り絵俳書の発展に大きく貢献している。

「多色摺り絵俳書について」雲英末雄（注 4 と同書 21 頁）

「勝間龍水」森銑三　には「『山の幸』は，私はたゞ狩野亨吉博士の旧蔵本が，東北帝国大学附属図書館に入つてゐることを知り得たのに過ぎない」[6] と記されていて，昭和 11 年版『別置本目録』刊行時は，極めて稀覯であったことが知られる。

『繪本千代の松』（伊 6-630）鈴木春信

狩野文庫には数点の鈴木春信絵本があり，『鈴木春信絵本全集』研究編・影印編 1･2　藤澤紫 [7]　に紹介されているが，貴重書となっているのは上記１点のみである。

『潮来絶句』（伊 6-602）

損傷の状況を示す。嘗ての所蔵者が色を塗った箇所もある。

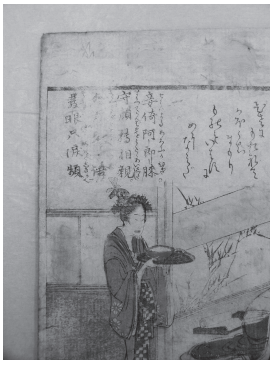


写真 13　『潮来絶句』損傷状況

5　『俳書の世界』雲英末雄　日本書誌学大系 84　平成 11 年　初出『狩野文庫マイクロ版集成』宣伝用パンフレット　丸善株式会社　1992 年 5 月

6　『森銑三著作集』4　中央公論社　昭和 46 年　345 頁　初出『勝間龍水』私家版　昭和 12 年

7　改訂新版　勉誠出版　平成 15 年

『東海道五十三驛』（伊 6-509）

もとは糸で綴じられた冊子であったと推定される。

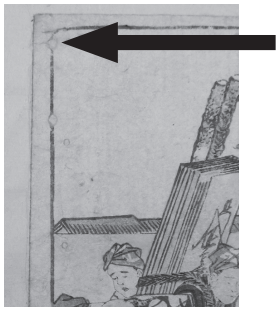


写真 14　『北斎　重信　東海道五十三驛』　現在見開となっている絵の端の位置に穴が並んでいる（枠が切れている）

『繪本時世粧』（伊 6-632）

【写真 15】に見られるように，人物の脇に添えられた説明の文字が消されていることがある。後刷にはこの文字部分が印刷の際に削除されていることが指摘されており [8]，単なる悪戯ではなく所蔵者が問題を避けるために塗りつぶした可能性もある。

写真 15　『繪本時世粧』　人物の傍の枠が塗りつぶされている
※東北大学デジタルコレクション

『繪本江戸櫻』（伊 6-628）享和三年十返舎一九序

画師の署名は見あたらず，『別置本目録』では空欄としているが『国書総目録』『東北大學所藏和漢書古典分類目録』は北尾政美（鍬形紹真（蕙斎））画とするため，『今様職人尽歌合』（伊 6-604）の前に置いた。国立国会図書館所蔵『絵本（名所）江戸桜』（京乙 -370）・国文学研究資料館所蔵『絵本（名所）江戸桜』（ヤ 6-288）は寛政卯〔7年〕正月武埜樵夫序 [9]。

3. 複製・電子化資料について

狩野文庫由来の資料については一部を除いてマイクロフィルムが作成されている。また，狩野文庫マイクロ化事業の際に，錦絵・色刷絵本等の彩色資料についてはカラー画像が作成され『東北大学デジタルコレクション　狩野文庫データベース』で公開されている。墨刷の場合はマイクロフィルムからデジタル化した画像を公開している。ただ，この画像は地図類の画像同様，画質等現在では，改善が望まれているものである

『東北大学デジタルコレクション』において
https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000398tuldc
全体の画像を公開している資料は，現在次の通り。資料名称は，デジタルコレクションにおける名称とした。デジタルコレクションでは，現在貴重図書番号は示しておらず，元の狩野文庫の番号となっている。

【錦絵】

廣重東海道五十三次（伊 8-515）5-16693-1（カラー）
東海道張交圖曾【ママ】（伊 6-512）5-16680-1（カラー）
書畫五拾三驛（伊 11-506）5-16672-56（カラー）
東海道五十三次（伊 11-510）5-16679-1（カラー）
水滸傳豪傑百八人（伊 11-561）5-16674-12（カラー）
曾我物語圖繪（伊 11-562）5-16676-1（カラー）

【繪本】

岩木繪つくし（伊 6-603）5-16569-3（白黒）
繪本常盤草（伊 6-631）5-16623-2（白黒）
北尾重政畫本（伊 634）5-16575-1（白黒）
新吉原千本櫻（伊 6-609）5-16609-2（白黒）
繪本歌かるた小山繪百人首（伊 6-627）5-16586-2（白黒）
海幸（伊 6-605）5-16571-2（カラー）
山幸（伊 6-621）5-16705-2（カラー）
繪本千代の松（伊 6-630）5-16615-3（白黒）
吾妻曲狂歌文庫（伊 6-601）5-16567-1（カラー）
古今狂歌袋（伊 6-608）5-16663-1（カラー）
新美人合自筆鏡　前編（伊 11-560）5-16673-1（カラー）

8　『大英博物館』三巻（秘蔵浮世絵大観Ⅲ）楢崎宗重編著　講談社　昭和 63 年

9　国立国会図書館デジタルコレクション・国文学研究資料館電子資料館　の目録及び画像による。

繪本譬喩節（伊 6-629）5-16613-3（白黒）
東都勝景一覧（伊 6-612）5-16681-2（カラー）
潮來絶句集（伊 6-602）5-16568-2（カラー）
畫本東都遊（伊 6-626）5-16579-3（カラー）
山滿多山（伊 6-622）5-16706-3（カラー）
東海道五十三驛（伊 6-509）5-16678-1（カラー）
繪本時世粧（伊 6-632）5-16606-2（カラー）
繪本江戸櫻（伊 6-628）5-16587-2（カラー）

【目録訂正一覧】
□水滸伝豪傑百八人（伊 11-561）：刊本→江戸　加賀屋吉右衛門板
□『百人女郎品定』（伊 6-616）:【追加】「無聲藏」「雀庵文庫」の印記あり
□北尾重政信畫本（伊 -634）：北尾重政信畫本→ 北尾重政畫本

4. 狩野文庫「売立目録」の目録について

狩野文庫に，「売立目録」のコレクション【写真 16】が含まれていることは，関係者にはよく知られている。「売立目録」によって，現在は所在が確認されていない資料の写真を見ることができることもある。また，美術品・写本等については由来を確認できることが，資料評価の重要な要素でもあるが，それがこうした目録によって可能になる場合がある。研究資料として有用である。

写真 16　狩野文庫書架の　売立目録

現在は『売立目録の書誌と全国所在一覧』都守淳夫編著 勉誠出版 2001 年　によって，狩野文庫の売立目録の検索が可能であるが，それ以前から，これらの目録の利用者の要望に応えて，あるいは利用者自身によって，いくつかの狩野文庫「売立目録」の目録が作成されていたので以下に紹介しておく。ただし，現在は一般の利用に供していない場合がある。

『書畫骨董展觀入札目録總目』 昭和 22（1947）年

表紙は古典籍の保護表紙に用いられる「東北帝國大學圖書」の文字が入った薄茶色の表紙，本文は柱に「東北帝國大學附屬圖書館」の文字のある罫紙に毛筆で記されている。末尾に「右總目昭和二十二年十月二日書畢　常盤生記」とあり，常盤雄五郎[10]の編纂したものではないかと思われる【写真 17】。

記述されているのは，番号【通番：一～一〇一四】・外題・内題「又ハ」内容ノ概畧・會場「又ハ」主催・年紀・装釘[11]・部數・冊数・登記番号　で，目次は次のようになっており，売立を行なった家・人物の身分，地域，その他内容によってまとめた部分もある。

種別
◎華族
○公爵　○侯爵　○伯爵　○子爵　○男爵　○某華族　○舊大名
◎諸名家
○ア行～○ワ行
◎某家（年代順）
◎京都諸名家
◎大阪諸名家　　○山中商會
◎名古屋諸名家
◎金澤諸名家
◎地方諸名家
◎陶磁器等
◎浮世繪，古書籍
◎燈籠，庭石
◎雜

10 常盤雄五郎（明治 20 年―昭和 31 年）は大正 2 年より宮城県図書館勤務，大正 12 年より東北帝国大学附属図書館勤務。『本食い蟲五拾年』常盤雄五郎　仙台昔話会　昭和 31 年　参照。
11「和大」「和中」「洋四六」「洋菊」等といった大きさを含む記述。

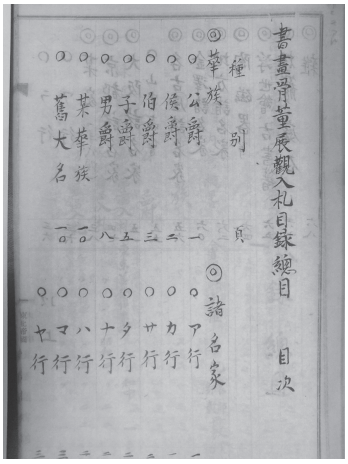
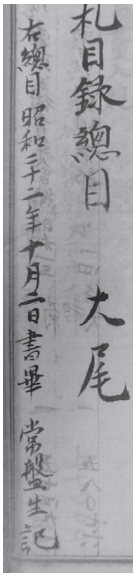


写真 17



『東北大学附属図書館所蔵【狩野文庫：売立目録データベースリスト】』石垣久四郎[12]編　2006 年 6 月 30 日

データベース化のため作成されたリストで，請求記号（通番）・入札会名・入札会名読み・入札年月日・入札年（西暦）・開催会場名・開催地・筆頭主催者名・主催者名読み・大きさ・目録点数・図版点数　を記述する。読みや西暦はデータベース化のためのものである。現在この電子データは館員の内部利用のみである。

このほか，売立目録を活用していた研究者が作成した目録もある。

『狩野文庫蔵〔諸家美術品売立入札〕目録細目』松野陽一・久保木哲夫・杉谷寿郎　昭和 63（1988）年 7 月 29 日作成

三名の和歌研究者が作成。和歌資料写真を収載した目録に印がある。手書の原稿を複写したものが保管されている。

（おおはら　りえ，東北大学学術資源研究公開センター助教・附属図書館協力研究員）

12 常盤氏・石垣氏の目録作成については，「漱石文庫和漢書の保存状況について」大原理恵 『東北大学附属図書館調査研究室年報』4　2017 年 3 月　参照。